



学会ホームページ <http://jasce.jp>

018号 (2014年1月14日)

## 目次

2014年 新春のご挨拶  
出版情報  
学会ワークショップ  
北海道大会が成功裏に幕  
2014年度大会予告  
会則・細則の改定  
各理事と担当分掌の紹介

## 2014年 新春のご挨拶

全国の協同教育学会の皆様、明けましておめでとうございます。心より新春のお慶びを申し上げます。

さて本会は、今年5月に設立満10年の誕生日を迎えます。小学校なら1/2成人式のイベントを企画するところかもしれませんが、それにならって本当の成人式に向けた決意を少し述べたいと思います。

2004年から2013年までの10年を幼少年期とすれば、今年から始まる10年は子どもから大人への成長著しい青年期にあたるのではないのでしょうか。幼年期にあつては会の中心メンバーとの個人的なつながりから参加してくださった方も多く、協同教育という言葉も耳新しいものであったように思います。

それが近年、初等中等教育の現場では、文科省による話し合い活動の重視が呼び水となって、協同学習に対する理解・関心が高まっております。大学教育においてもアクティブ・

ラーニングという言葉の流行の中で、協同・協働学習に注目が集まっております。

こうした外的環境の変化と共に、本会のささやかな努力の積み重ねも、目に見える形になって参りました。毎年各地で開かれるワークショップの参加者も、この10年の累計では3000名を優に超えると思われます。九州からスタートした年次大会も、2回目の東京を起点とし、そこから順次南下を図り、愛知・静岡で力をためて2008年には中京大学で国際大会を開くことが出来ました。その後さらに南下を続け、兵庫、山口と西日本を縦断。そこから一転、北上を開始し、千葉、新潟、そして北海道と北限まで本会の存在をアピールして参りました。各年次大会には地域の先生方の参加も多く、協同学習実践家の輪が幾重にも広がっております。

このような草創の礎の上に、これからの10年をどう展開するのか、会員の皆様と一緒に考えていかねばなりません。個人的な願いを吐露するならば、今年10月の東京大会を助走とし、今度は九州から四国/中国、関西、東海と順次北上し、もう一度、全国縦断を行いたいと思います。また、各地の実践家や研究者が今まで以上に交流する機会を増やし、協同教育の可能性を広く日本の教育界に認知させたいと思います。そのためにも、今年は新しい企画に挑戦し、若い方たちの活躍の場を増やして参りたいと

思います。

本年が会員の皆様にとって、さらなる躍進の一年になることをお祈り申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。(学会長 関田一彦)

## 出版情報

2013年12月、アドラー心理学に造詣の深い古庄高先生(神戸女学院大学)がその<勇気づけ>の教育を平易に解説した『家庭と学校に活かすアドラー心理学』(二瓶社)を上梓されました。本書では、子どもたちがさまざまな問題解決や意思決定の過程に主体的に参加し、役割や責任を果たすことを通して成長していく、子育てと教育が提案されています。



## 学会ワークショップ

### ◇一日研修

- 1月22日(日)  
こまつ芸術劇場うらら(小松市)
- 2月16日(日)  
ピュアリティまきび(岡山市)

### ◇ベシク

- 2月22日(土)~23日(日)  
創価大学(八王子市)
- 3月22日(土)~23日(日)  
大分県社会教育総合センター(別府市)

# JASCE

## 北海道大会が成功裏に幕!

11月29日から12月1日にかけて、第10回の全国大会が開催されました。29日はイベントと位置付けられた公開授業研究会が札幌市立西宮の沢小学校で開かれました。道内外から100名を超える先生方が集まり、熱心に参観されておられました。

30日からの大会は、札幌大学と北海道教育大学の共催で行われました。札幌大学を会場に、多くの研究発表や実践報告に加え、ワークショップやラウンドテーブルなど様々な企画が行われました。

大会実行委員会企画テーマは「北海道の協同教育—北海道教育大学“発”」でした。通常のプログラムと合わせて、「北海道教育大学“発”」

の研究発表・実践報告・ワークショップ・シンポジウム・記念講演が行われました。

初日のシンポジウムでは、「学校・地域・行政・大学の協同による教育づくり・まちづくり」という、今金町を軸にしたユニークな取り組みの検討が行われました。今金町は札幌から車で3時間半ほど離れていますが、教育長をはじめ、たくさんの町民の皆さんがシンポジウムにご参加くださいました。今金町の皆さんはワークショップ等にも参加され、さらに学びを深めました。このように、今回の大会は、町全体(学校・地域・行政)と大学とが協同で取り組む「新しい協同教育モデル」を探る貴重な機会になりました。

また、二日目には、教育現場に新しい風を送り続けている中学校教師、堀裕嗣氏の記念講演が「北海道教育大学“発”」の企画として行われました。「教師力ピラミッド」と題する、堀氏のダイナミックなプレゼンテーションに会場は大いに湧きました。

小雪のチラつく初冬の北海道の景色と協同教育の熱い息吹きが、気持ち良いコントラストとなって、参加者にとって思い出深い大会になりました。



### ●2014年度大会予告

2014年度の大会(本学会設立10周年記念大会)は、10月24日(金)～26日(日)の3日間、創価大学(東京都八王子市)にて開催します。次号のニューズレター(19号)にて、大会プログラムの概要および発表規定の詳細についてお知らせします。発表申し込みの受付は4月1日を予定しております。

### ●会則・細則の改定

北海道大会に合わせて開催された総会において、学会運営に関するいくつかの規定の改定が了承されましたので、ご報告します。

1. 会長指名枠を2名から4名に増やし、理事の総数を12名とする。

(これにより、理事の年齢構成や専門分野の多様化が進みます。)

2. 総会成立要件である参加者数に委任状による参加を数える。
3. 年度末の理事会において新年度予算を作成し、総会においては執行状況の報告を前年度会計報告と合わせて行う。(従来は年度途中の総会で、予算案が承認されるという変則スケジュールでしたので、これを現状に合わせました。)

### ●各理事と担当分掌の紹介

昨年夏の理事改選において8名の理事が選出され、その方たちの互選により会長が決まりました。さらに、規定に従い会長指名枠を使って4名の理事が新たに加わりましたので、

12名の理事の主な分掌と合わせてお知らせします。\*は会長指名枠の理事の方です。

会長 関田一彦

副会長 石田裕久

事務局

久保田秀明(局長)、須藤文\*

研修委員会

高旗浩志(委員長)、杉江修治、

緒方巧\*

編集委員会

甲原定房(委員長)、安永悟、

中西良文\*

広報委員会 水野正朗\*(委員長)、

伏野久美子(国際渉外担当)